教室と社会つなげる学び

徳島・鳴門で日本ＮＩＥ学会

日本ＮＩＥ学会の第16回大会が10月19、20の両日、徳島県鳴門市の鳴門教育大で開かれた。「『新たな時代』に対応したＮＩＥ」をテーマに全国の研究者、教員らが取り組みを発表し、意見交換した。19日に行われたシンポジウム形式の討議と、20日の研究分科会での地元研究者の発表を紹介する。（山本直樹、黒崎平雄）

「教室と社会がつながる学びを」というテーマで意見交換する（左から）阪根氏、野口氏、岡本氏

シンポジウム形式の討議では、日本ＮＩＥ学会会長の阪根健二氏（鳴門教育大学院教授）、元小学校校長で徳島新聞ＮＩＥコーディネーターの野口幸司氏、同新聞編集局長の岡本光雄氏が「教室と社会がつながる学びを」というテーマで意見交換した。ＮＩＥ活動を振り返る中で、児童らの視野を広げると同時に、言語力不足などの課題克服を意識することの重要性が浮き彫りとなった。

野口氏は徳島県吉野川市での教員時代に新聞で報道された活動を二つ紹介した。一つは認知症の高齢者を学校に招き戦争体験を語ってもらう授業。「新聞に載ることで児童は自分たちの行っていることの社会的価値を認識できた」とした。

もう一つはアルミ缶回収の収益金をアフリカのザンビアに寄付し現地の子どもの教科書購入につなげたこと。児童が現地で撮られた写真の付いた記事を読んだ時について「自分たちの活動を地球規模で捉えられた瞬間だった」と振り返り、「学校と社会をつなげることこそＮＩＥの果たす役割ではないか」と語った。

紙面化で活動の価値認識

この意見を受け岡本氏は「新聞記事の基本要素とされる５Ｗ１Ｈに Ｗｏｒｔｈ（価値）を加えることを意識したい」とした。さらに災害報道を多面的、継続的にすることの重要性などに触れ「私たちの命と暮らしをどう守るのかについて、教育現場や家庭で考えるきっかけを記事で示し続けていかなければならない」と力を込めた。

阪根氏は自身が言葉、情報の持つ「つなぐ力」を意識するようになったきっかけとして、新聞記者だった父の影響を挙げた。教員となって情報、報道の力をさらに意識し、ＮＩＥを実践。その中で、昭和20年代に父たちが製作した、米国の影響による日本社会の変化を伝える新聞を手に入れた経験に触れ、「新聞の残すもの、つなぐ力のすごさを感じた」と語った。

言語力を養う手段として新聞を活用する意義についても話し合われた。

野口氏は「もし…だったら」という仮定の話が理解できない子どもが増えていることや、自分が思っているのと同じように相手も思っていると勘違いしてトラブルにつながるケースを挙げ、文章になるような言葉で語る力が育っていないことと深く関係すると指摘。「新聞を作ったり読んだりすることで言語力を育てる必要がある」と話した。

この発言を受けて岡本氏は「当事者意識を持って読者から共感を得られる記事を書き、教室で学びの助けとなる新聞を作り続けたい」と語った。

教育への新聞活用の今後について阪根氏は、子どもの社会的関心を高め、将来への影響力を持つものとして新聞を見直そうと呼び掛けた。その上で「ＮＩＥを学校教育だけにとどめず、保護者とともに地域に広げていくことが大切だ」と述べた。

岡山関係の研究者発表

岡山南高教諭
畝岡　睦実氏

批判的思考力育成目指す

「批判的・論理的思考力」の育成を目指して社説を読む学習を試みた。女性医師の働く環境についての社説を教材とし「環境とは」「整備するとは」など問いを立て、それぞれに関する記述の順番や分量から書き手の意図を考えた。すると「それは正しいのか」という問いも生まれた。

次に生徒は、さまざまな社説を読み解き、教育用ＳＮＳ（会員制交流サイト）を使って他校の生徒たちと意見交換した。

ニュースについて自主的に勉強する生徒もおり、読む力に加えて伝える力も向上したという声があった。

川崎医療福祉大講師
國弘　保明氏

知識広げる「質高い」記事

管理栄養士を目指す学生にとって「新聞のどこを読めば良いか分からない」という声を多く聞き、指導の必要性を感じて研究した。

まず国家試験の過去問題から「社会・環境と健康」分野について名詞を抽出。その中から「熱中症」「歯周病」などの疾病名六つを選び、山陽新聞社の検索システムで昨年1年間の紙面ごとの掲載回数を調べた。

すると、一面や医療面「メディカ」よりも、社会面の掲載が１２６回で一番多かったことが分かった。今後は、より学生の知識を広げる「質の高い」記事を選び出す方法を考えたい。

中国短期大教授
松井　圭三氏

感想書いて文章力向上

新聞を教材に「家庭支援論」を学ぶワークブックを２０１８年度に作り、保育学科2年生の講義で使用した。記事や解説、用語説明などを読み、感想を書くことで、学生の5割以上に文章力の向上が見られた。

受講した96人にアンケートを実施。ほとんどの学生が新聞を読んでいなかったが、講義を機に20人が読むようになった。保育園や幼稚園への就職活動で、この講義が少しでも「役に立った」と半数が回答。知識の広がりなどが理由だった。

今後、介護福祉士を目指す学生らにもＮＩＥを活用した講義を予定している。